

令和元年度 全国高等学校教育改革研究協議会資料

静岡県立榛原高校における地域との連携・協働による新しい学校づくり
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」実施報告

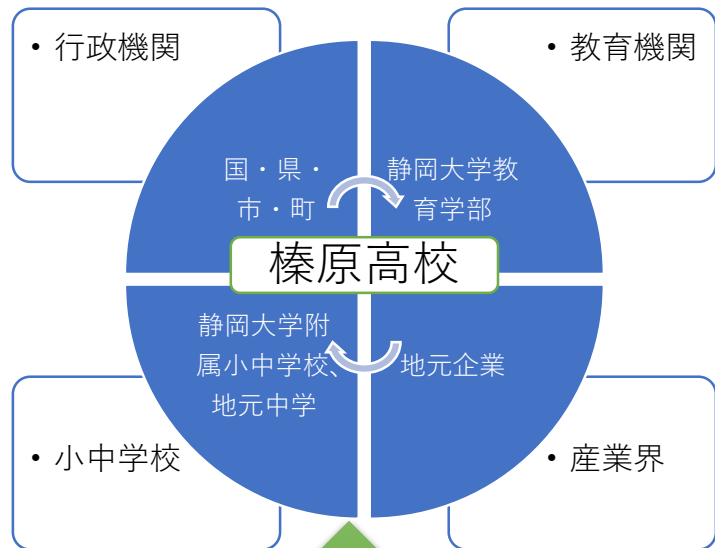
2019年10月23日（水）

静岡県教育委員会

静岡県立榛原高等学校



榛原高校を支えるコンソーシアム



榛原高校の目指す教育

グローバルリーダーの育成

地域についての認識を深めた**地域リーダー**の育成
 グローバルな視野を持つ**グローバルリーダー**の育成
 これからの時代に求められるスキルの育成

H A Fプロジェクト
 HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT
 ～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～

具体的な取り組み

- ファシリテーション研修
- 課題解決・協働学習
- 大学（研究室）訪問
- フィールドワーク（企業訪問）
- 主権者教育
- レポート作成、プレゼンテーション
- ESLプログラム
- 海外研修（シンガポール、台湾、アメリカ・シアトル サンフランシスコ）

榛原高校のチャレンジ (H27～)

- 海外研修の導入
- 理数科 シンガポール研修
- 普通科 台湾研修
- 海外修学旅行の導入へ

- 文科省委託事業への参加
- 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム

- 静岡県教育委員会事業への参加
- 魅力ある学校づくり推進事業
- アドバンススクール事業

牧之原市との連携事業

地域リーダー育成プログラム

地域のコミュニティの危機

- ・ 少子高齢化、人口流出
- ・ 耕作放棄地、空き家問題
- ・ 地域社会のグローバル化

人材の reflux

総合的な 探究の時間の改革

文理融合型のカ リキュラム開発

社会教育機関と の連携

地域を支える若い担い手の 育成は地域の願い

榛原高校と高校生への期待

本事業は、文部科学省委託事業（2019～2021年度）として実施します

学校概要

静岡県立榛原高等学校（創立120年を迎える伝統校）



設置課程 全日制、定時制課程

校訓 「至誠真剣」

設置学科 普通科（定員 5学級 200人 合計 600人）

理数科（定員 1学級 40人 合計 120人）

主な進学先 北海道大学、東北大学、筑波大学、横浜国立大学

（過去5年） 東京海洋大学、東京工業大学、金沢大学、静岡大学

浜松医科大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学など

事業内容

HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT 2019

◎ 目的

将来 「地域のリーダーを担う人材の育成」
「地域への人材還流」

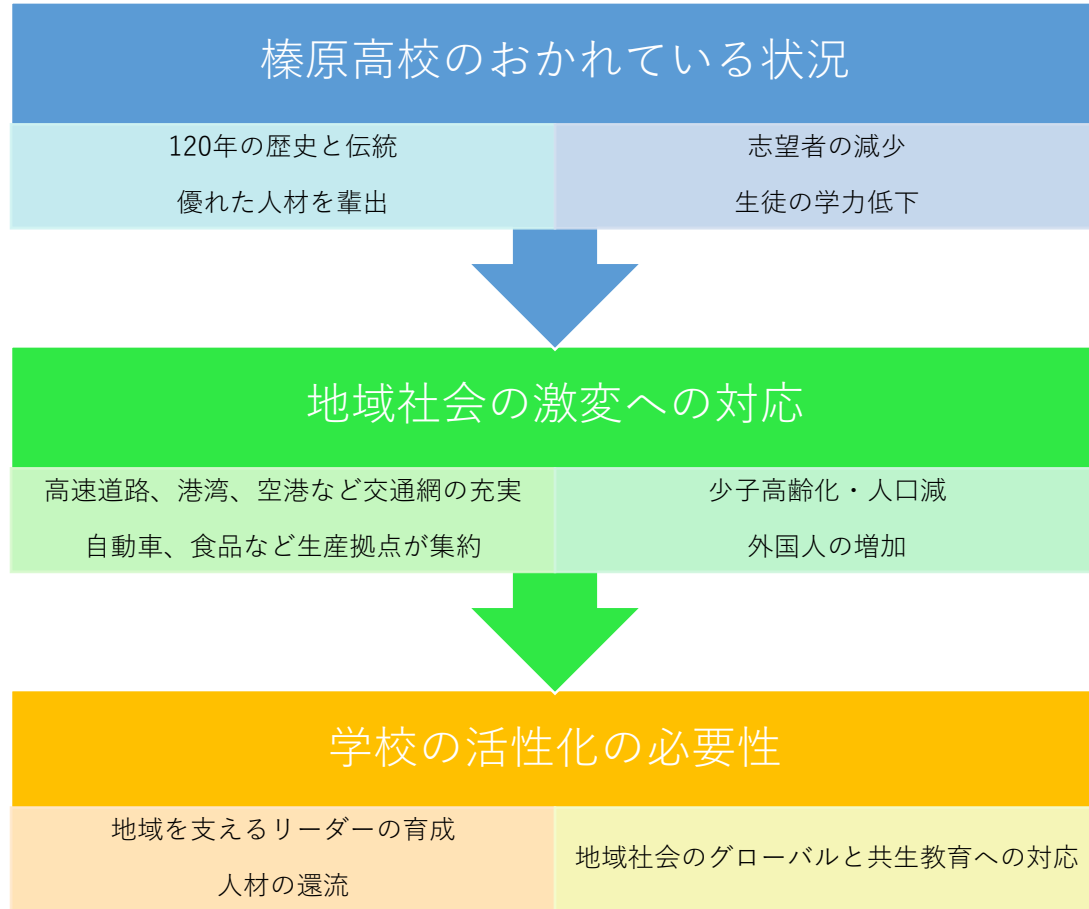
◎ 具体的取組

「総合的な探究の時間」における学びの改変（1年生）

「地域（ローカル）とのつながり」を意識した教育活動の実践

「世界（グローバル）とのつながり」を意識した教育活動の実践

事業申請への経緯



◎背景

- ・ 牧之原市周辺地域の人口減少と人口流出
- ・ 地場産業（茶）の衰退と事業継承者の不足
- ・ 外国人労働者の増加など産業構造の変化
- ・ 新学習指導要領の施行
- ・ 大学入試改革への対応

◎目的

- ・ 将来の地域リーダーの育成
- ・ 地域への人材の還流

◎主な取り組み

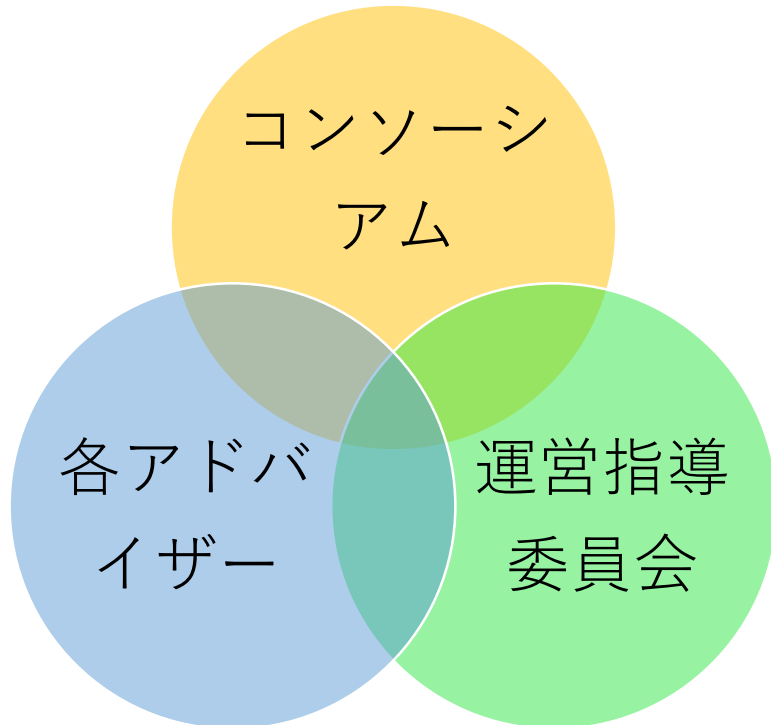
- ・ カリキュラム開発
- ・ 総合的な探究の時間の改革
- ・ 実社会プログラム（企業訪問、海外研修）
- ・ 地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市事業）

◎体験型プログラムを実施する理由

- ・ 地理的条件が悪いことに起因する実体験の不足を補う
- ・ 外国人の増加に伴う地域のグローバル化への対応
- ・ 人口減少・流出のなか、地域の核となる学校存続のため

本事業の推進のための組織

HAFプロジェクト



文部科学省委託事業
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業
(グローバル型)」運営組織図

コンソーシアム

静岡県教育委員会（管理機関）
静岡県立榛原高等学校
学術機関、行政機関、企業、他

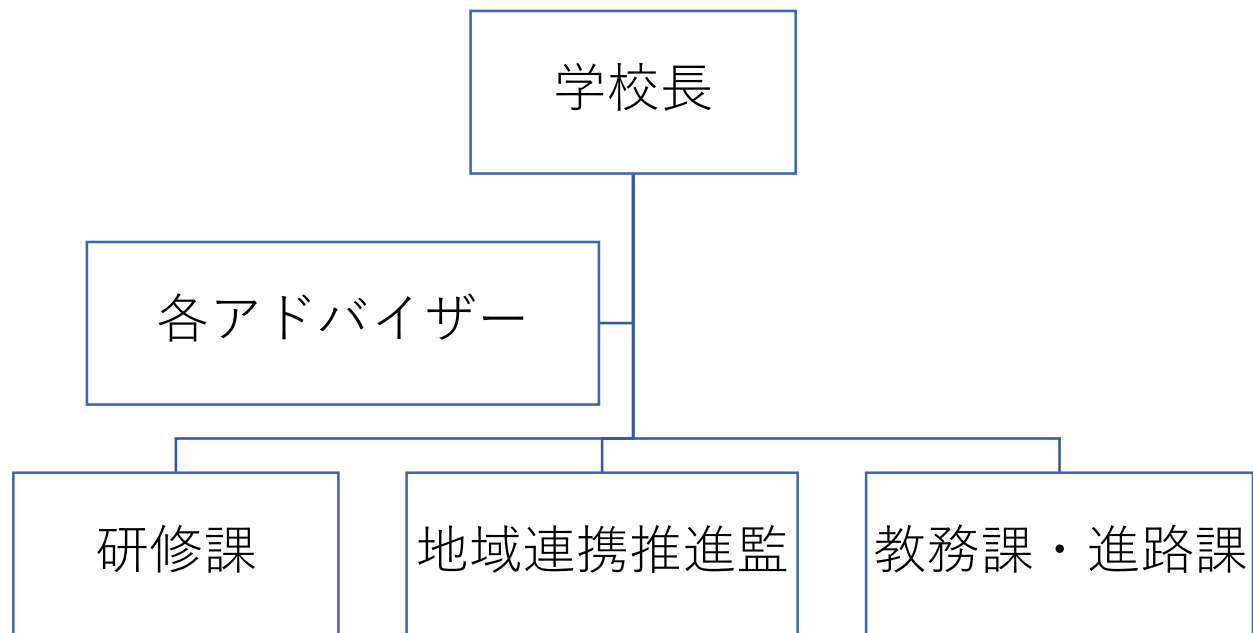
各アドバイザー

カリキュラム開発アドバイザー
海外交流アドバイザー
地域協働学習実施支援員

運営指導委員会（第三者委員会）

学術機関、企業関係者

校内組織



研修課の分掌業務の変更（新規事業担当へ）

- ・国内外研修の企画・運営
- ・総合的な探究の時間の企画・運営（学年部と共同）
- ・イングリッシュ・キャンプの企画運営（英語科と共同）

地域連携推進監

- ・行政機関と協力して事業の企画・運営（連絡調整）

学校長

全体統括

副校長

事業管理・運営

年間計画の作成と実践

研修課

校内の事業主体（企画・運営）

校内研修の企画・運営

地域連携推進監

行政機関との連携

教務課

新教育課程の研究

学校設定教科・科目の研究

総合的な探究の時間推進（学年部と共同）

カリキュラムマネジメント

日程、時間割調整

進路課

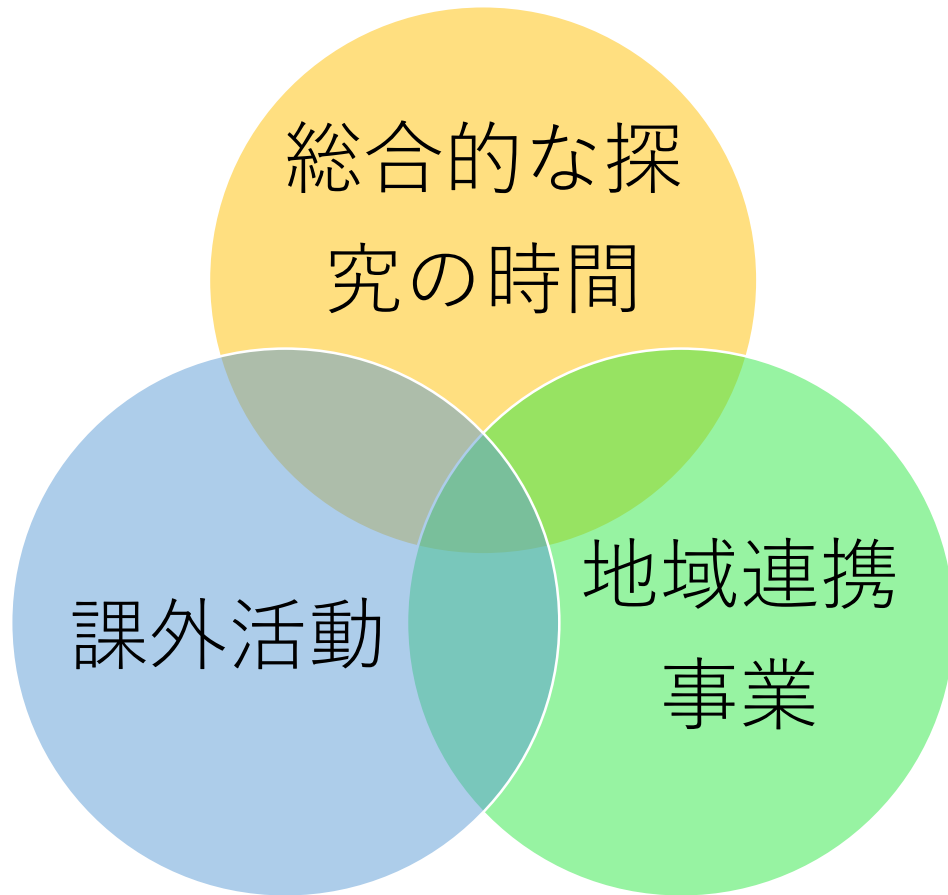
新しい入試制度に対する研究

キャリア関連指導

高大連携事業

学力向上

主な事業内容



- **総合的な探究の時間改革**
総合的な探究の時間（年次進行）
- **課外活動**
海外研修（アメリカ、台湾）
国内研修（沖縄）
企業（事業所）訪問
部活動（英語／グローバル部）
イングリッシュキャンプ
外国籍（定時制）生徒との異文化交流
- **地域連携事業（牧之原市）**
地域リーダー育成プロジェクト
答志島サステイナブルキャンプ
市民ファシリテーターの協力

2019年度 事業計画

全生徒対象

希望者対象

学年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 学年	ファシリテーション研修					総合的な学習の日				成果発表会	
	市長出前講座		企業人講話			企業訪問		台湾研修		研修成果発表会	
	日経STOCKリーグレポートコンテスト										
2 学年	修学旅行（関西）に向けての探究学習						キャリア探究			成果発表会	
	アメリカ研修（事前・事後研修）						研修成果発表会				
	沖縄研修										
全学年	イングリッシュキャンプ（EC）				定時制課程生徒との交流（英語／グローバル部）						
	地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市事業）										

事業報告

【総合的な探究の時間（市長出前授業）】

杉本市長の講話



グループワーク（探究活動）



学習成果の報告



情報のインプット

対話による理解の深化

アウトプット

事業報告 【総探（企業人講話）】

地域を支える企業の方の講話

探究活動（個人、グループ）

成果発表



情報のインプット

対話による理解の深化

アウトプット

事業報告

【課外活動（イングリッシュキャンプ）】

講師 チャップマン大学、カリフォルニア州立大学 学生 8人
日程 8月11日（日）～13日（火）
参加生徒 1年生 25人 2年生 11人 3年生 5人 合計 41人



初めてアメリカ人が話す英語を聞き、最初は全く聞き取ることが出来なかったが、3日間の活動を通して最終的には完璧までとはいかないが、なんとなく聞き取ることができるようになり、英語は話したもん勝ちで慣れが大切だと強く感じた。また、本物の英語はこれだということを肌で感じる事ができた。（生徒感想・抜粋）

アメリカ研修の目的（生徒）

生徒が設定した研修目的（抜粋）



日本(静岡)の企業が海外で実際に仕事をしている姿をみて、自分の住んでいる地域の会社も、どうしたら海外で魅力あるものになるかを考える。また、アメリカの文化への理解を深め、日本の良さを再確認する。

日本の企業が海外でどのような活躍をしているのか知りたいです。また、初の海外なので日本との文化の違いを実感し自分の価値観を広げたり、実際の英語を感じたいです。

アメリカ研修で学びたいことは、日本の企業が海外では主にどんな仕事をしてどのように活躍しているのかを学んできたいです。また、台湾研修の時と違ってアメリカは日本語が通じる人はあまりいないと思うので、現地の人と話したり聞いたりする中で自分の英語力を試したいです。最後に、アメリカの雰囲気を感じ、いろんな経験をして、身になる研修にしたいです。

海外の企業の進んだ技術を感じたい。ネイティブな英語に触れこれからの英語の勉強に活かしたい。日本との文化の違いを感じ他国の文化の理解を深めたい。

日本とどれくらい文化が違うのかを肌で感じる。そこに住む人、食べ物、考え方等できるだけたくさんを見て、触れて何かを得ることを目標にする。

日本の企業が海外でどのような活躍をしているのか学んだり、海外の進んだ技術を知ること。そして、多くのものを見て文化や習慣の違いなどを感じたい。

日本とはどこがちがうのかを見つける。英語の勉強。日本はどれだけ世界に発信しているのかを見つける。

なかなか入ることのできない日本総領事館やマイクロソフトの会社に行くのでアメリカにとって日本とはどういうところなのか学びたいです。また、英語の良さを見つけたいです。

日本と海外がどのように影響し合っているのか。日本とは違う海外の技術を学ぶ。英語にたくさん触れる。

アメリカ研修報告



アメリカ研修 さらなる発展の可能性

在シアトル日本国総領事館の公式フェイスブック



日本の静岡県から来た高校生が当館を訪問しました！

On August 23, a group of high school students from Makinohara City, Shizuoka prefecture visited our office. We gave a presentation on the role of the Consulate as well as presented an overview of the relationship between Japan and Washington State. Makinohara City is famous for green tea, so Consulate staff provided an activity for students to design a tea label for American consumers. Our Consulate intern also spoke about her experience as an exchange student in Seattle and encouraged the students to consider study abroad in their future.

Thank you for visiting Seattle!



関連するページ



Consulate General of Japan in S...
領事館&大使館



The North American Post
放送・メディア製作会社



Consulate General of Japan i...
政府機関



Japan Foundation New York and...
教育



Lighthouse & youmaga.com
出版



Japan-America Society of the St...
社会サービス



AATJ - American Association of ...
公共・行政サービス



Consulate General of Japan in L...
領事館&大使館



在シアトル総領事館でも、課題探究的なワークショップが企画されていました

事業報告

【課外活動（国内（沖縄）研修）】

日程 8月26日（月）～29日（木）

目的 サイエンス分野においても、地域経済社会、研究施設、地方大学と諸外国が密接に関連していることを理解するとともに、グローバルな視野と国際感覚の醸成をはかる

参加者 2年生 15人

訪問先 OIST

琉球大学

沖縄宇宙通信所

首里城英語ツアー

平和祈念資料館 他

費用 約8万円（一部補助あり）



事業報告

【地域連携事業CLIP（答志島サステイナブルキャンプ）】

日程 8月26日（月）～27日（火）
参加者 1年生 15人 2年生 4人 計19人
訪問先 三重県鳥羽市答志島
費用 約1万円（一部補助あり）



コンソーシアム・運営指導委員会報告

コンソーシアム会議・運営指導委員会（令和元年9月19日（木）午後1時30分から4時 榛原高校）

【協議・指導事項（抜粋）】

高校生の減少・大学進学者の減少と大学における地域連携の必要性の拡大している。

地域人材の育成の必要性が高まっており、教育機関と産業界の協力は重要。

高校は、中に閉じこもるのではなく、地域の声を聴く必要がある。

普通科、教員への普及を考える必要がある。

事業内容が総花的で課題が分散化している。集約する必要性を感じる。

大学でも定員割れが深刻化している。同じ課題を共有していると考えている。

優秀な学生を確保するには、親の理解と協力は不可欠。榛原高校の取組を保護者に広めることが大切。

また、保護者の評価についてアンケート等を実施し、検証を行う必要がある。

安価に外国人との交流を図る方法を探るべき。

地域のコミュニティの中心となる方々を巻き込むことが大切。

生徒・保護者、地域の方々への活動報告

2019年度 椋原高等学校 海外国内研修報告書

【アメリカ(シアトル・サンフランシスコ) / 沖縄】

渡る、感じる。私と地域の未来のために。

HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT

English Camp

静岡県立椋原高等学校 HAF プロジェクト

2019年8月22日-27日 (2年生13人) / 2019年8月26日-29日 (2年生15人)

静岡県立椋原高等学校 TEL: 0538-22-0380 FAX: 0538-22-6587

http://www.edu.prf.shizuoka.jp/haibara-h/oms/

Haibara High School Community Newsletter

椋原高校の“今”をお伝えします。

2019.9 椋高TIMES

2019年 椋高の夏

今年の夏に行われた椋高生の様々な活動を紹介します。

English Camp

8月11日から13日の3日間、アメリカのチャップマン大学やカリフォルニア州立大学などから8人の大学生が椋原高校にやってきました。41名の生徒が、ネイティブの学生たちと英語によるワークショップやプレゼンテーションなどを通じて、楽しみながら英語や異文化を学びました。

明るく陽気な8人の大学生

アマゾン本社前

メジャーリーグ観戦

サンフランシスコ市内研修

小糸製作所シリアル事業所での研修

8月22日から27日までの4泊6日、2年生13人がアメリカ合衆国研修を行いました。シアトルでは、地元企業の杉本製茶と小糸製作所の現地法人を訪問し、マイクロソフト本社・アマゾン本社・ボーイング社エバレット工場などグローバルな大企業も見学しました。また、マリナーズの試合も観戦しました。サンフランシスコでは、2泊に分けて市内研修を行いました。

アメリカ合衆国研修 (シアトル・サンフランシスコ)

Haibara High School Community Newsletter

答志島サステイナブルキャンプ

8月26日からの1泊2日、答志島サステイナブルキャンプに1、2年生18人が参加しました。フィールドワークやワークショップを通じて、三重県の難島を抱える地域課題について他県の高校生や大学生、島の住民とともに考え、解決策の提案を行いました。

答志島に渡るフェリーにて

ワークショップの様子

サステイナブルキャンプ参加者

沖縄研修

8月26日から29日までの3泊4日、2年生15人が沖縄研修に参加しました。沖縄科学技術大学院大学(OIST)では、グローバルな研究環境に触れ、琉球大学では琉球についてのミニ講義を受けました。その他、JAXAの施設である沖縄宇宙通信所や沖縄平和祈念資料館なども訪問し、最終日にはホストファミリーと那覇市内研修を行い、沖縄の自然と文化に触れた体験をしました。

沖縄科学技術大学院大学(OIST)

琉球大学での琉球のミニ講義

沖縄宇宙通信所

万座毛にて

アメリカ研修 (シアトル・サンフランシスコ) 2019.8.22 - 27

成功 研修期間中に、アメリカ各地の研修地を回り、学生は様々な体験や学びを得ることができました。研修先企業や観光地での体験や、現地の人々との交流が、今後の成長に大きく貢献するでしょう。

事前研修報告

シアトル研修報告

サンフランシスコ研修報告

沖縄研修 2019.8.26 - 29

アメリカ合衆国研修 (シアトル・サンフランシスコ)

8月22日から27日までの4泊6日、2年生13人がアメリカ合衆国研修を行いました。シアトルでは、地元企業の杉本製茶と小糸製作所の現地法人を訪問し、マイクロソフト本社・アマゾン本社・ボーイング社エバレット工場などグローバルな大企業も見学しました。また、マリナーズの試合も観戦しました。サンフランシスコでは、2泊に分けて市内研修を行いました。

1年生の報告会

発表(カラオケ)の打合せ

15HR 澤部さんのレポート

情報科学講座

8月6日、静岡産業大学駿牧駅前キャンパス(BiViキャン)で2年生を対象に、情報科学講座が行われました。実験講座では「お湯で発電しよう」、LED光の特色を知らう、という講義が設けられ、大学における研究を体験しました。

科学探究講座

8月6日、静岡産業大学駿牧駅前キャンパス(BiViキャン)で2年生を対象に、情報科学講座が行われました。実験講座では「お湯で発電しよう」、LED光の特色を知らう、という講義が設けられ、大学における研究を体験しました。

科学研修

8月19日から1泊2日の日程で、1年生対象の科学研修が行われました。つくば市の高エネルギー加速器研究機構では、放射光実験施設やBファクトリー実験施設(光透過くまで加速した電子と陽電子を衝突させて様子を観察する)を見学しました。日本科学未来館、パナソニックリサーチ、マクスアークパーク品川なども訪問しました。

理数科行事

HPをご覧ください
生徒たちの日々の様子に加え、オープンスクールなどの情報もご案内しています。

HP: <http://www.edu.prf.shizuoka.jp/haibara-h/oms/>

日時: 10月26日(土) 8:20~16:00
内容: 授業参観、学校説明、紹介、生徒による相談会、部活動見学、学校案内(椋高ツアー)

今後の事業計画

総合的な探究の時間

1年生

総合的な学習の日（10月）
静岡大学教育学部訪問
ふじのくに茶の都ミュージアム訪問
学習成果報告会（2月）
牧之原市役所（予定）

2年生

修学旅行（関西）に向けた探究活動
第一志望届（自己のキャリア計画）作成
その他

地域連携事業は、牧之原市の募集計画（年8～10回）に沿って希望する生徒が参加

職員研修 先進校視察（学校設定教科・科目調査他）

課外活動

1年生（公民科と連携）

海外（台湾）研修（12月）
事業所訪問（10月28日（月）実施）
小糸製作所（静岡市清水区）
矢崎部品ものづくりセンター（牧之原市）
はごろもフーズ（静岡市）
TDK静岡工場（牧之原市）
伊藤園静岡相良工場（牧之原市）
金融経済教室（野村HD）

英語部／グローバル部

定時制外国籍生徒との交流会

事業分析

【総合的な探究の時間】

【成果】

事業の精選を行うことによる円滑な事業運営（昨年度の県コアスクール事業の成果）
牧之原市と市民ファシリテーターの協力（昨年度の成果を反映）
企業の方々の協力（昨年度の成果を反映）
事業内容のスリム化により、生徒・職員の負担軽減の達成
文科省委託事業として取り組むことによる生徒一人ひとりの主体性の向上

【課題】

事業推進のための組織整備の必要性（学年部と教務・研修課の役割分担の明確化など）
ホームルーム担任と外部講師との連絡調整の必要性
学年担当者の負担軽減の必要性
ホームルーム担任の業務負担の軽減の必要性（副担任等の役割の明確化）
持続可能な仕組みづくり（担当が変わっても円滑に実施できる仕組みの整備）
来年度のシラバス（年間指導計画）と評価基準の作成
学習成果の発信の必要性（場の提供）

事業分析

【課外活動】

国内（沖縄）研修

【成果】

国内におけるグローバル体験の実現

静岡空港利用

時間、費用負担の軽減

国内研修の提供

沖縄の歴史探究

自然科学分野での探究活動

【課題】

事前・事後研修の在り方

日程・費用・生徒募集について

引率業務の負担軽減

海外（アメリカ）研修

【成果】

事前研修及び本研修の円滑な実践

研修のさらなる広がり（次年度以降）

ショートホームステイ

現地学校交流（ワシントン大など）

自然体験（ヨセミテ国立公園）

【課題】

事前・事後研修の在り方

日程・費用・生徒募集について

引率業務負担の軽減の必要性

海外の治安情勢など

現状における成果と課題（まとめ）

【課題】

- ・校内推進組織の未整備
学校全体の取組として定着させるには時間が必要
- ・職員の業務負担の増加
一部の職員への負担の偏重
- ・生徒（コアメンバー）の負担増加
希望研修に参加する生徒は同じメンバー
- ・費用負担の問題
職員の旅費
生徒の経済的負担の増加
- ・イベントの増加
学校行事や部活動への影響
- ・部活動（英語／グローバル部）の活性化
活動内容の多角化に生徒の戸惑い
- ・事業終了後の経費
基金の設立問題
- ・その他

積極性に欠ける生徒

職員からの声掛けを待つ姿勢を変化させる必要性

【成果】

- ・新学習指導要領への対応
- ・「社会に開かれた学校」の実践
- ・希望研修実施時の生徒の費用負担の軽減
- ・**コンソーシアム（運営指導委員会）の支援が得られたこと**
牧之原市 地域リーダー育成事業支援
JTB静岡支店 海外研修支援
静岡県地域外交局 台湾研修支援
ふじのくに茶の都ミュージアム 生徒の訪問、海外研修支援
静岡大学教育学部 生徒の訪問、職員研修支援
静岡産業大学 台湾研修支援
矢崎部品ものづくりセンター 事前研修支援
TDK 生徒研修支援
伊藤園 生徒研修支援
静岡県立大学との連携（国際関係学部、経営情報学部）
- ・文部科学省委託事業推進による学校の活性化

コンソーシアムとの協業の成果

静岡大学教育学部

職員研修の受け入れ

1年生普通科200人の研修受け入れ（総合的な学習の日）

静岡産業大学

台湾研修事前研修支援

静岡県地域外交局

台湾研修で学校交流を屏東県で実施を提案

台湾研修実施時に生徒研修先として協力を約束

ふじのくに茶の都ミュージアム

海外研修事前研修の受け入れ（副館長自ら研修を主導）

1年生普通科200人の研修受け入れ（総合的な学習の日）

牧之原市

CLIP事業の改編、生徒の参加受け入れ

答志島サスティナブルキャンプ

矢崎部品ものづくりセンター

企業人講話における講師派遣

台湾研修の受け入れ

海外研修事前研修の受け入れ

英語／グローバル部の活動支援

TDK

企業人講話における講師派遣

企業訪問の受け入れ

伊藤園

企業人講話における講師派遣

企業訪問の受け入れ

JTB静岡支店

海外研修事前研修の受け入れ

牧之原市民（原口委員）

静岡県立大学との連携強化の提案

静岡県立大学国際関係学部海外研修事前研修

静岡県立大学経営情報学部との連携

次年度へ向けての事業展開

社会に開かれた学校

コミュニティ・スクール

従来の学校が対応していない内容

社会が求める人材を育成することも高校の役割

生徒の実体験を増やす活動の重視

フィールドワークの充実
社会で生きる学力を向上させる
「生きた英語の活用」

地域社会のグローバル化への対応

榛原高校と

コンソーシアム、連携機関の協力のもと、実社会で求められる人材を育成する

地域社会を支えるリーダーとなる人材

大学（院）を卒業後、地元の有力企業に就職する人材の育成